

東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第5号です。当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

東風季報

発行
東北風景写真家協会
仙台市宮城野区榎ヶ岡3-8-15
東北カラーデューブ(株)内
tel: 022-256-2141
編集 秋葉・進藤

東北風景写真家協会 撮影会担当・第一回企画 庄内撮影ツアー参加者募集

今年三月、当協会役員会に於いて組織の拡大を図る意味で、会の主な活動を企画・運営する役員の役割担当を導きました。今般、その中で撮影会担当の丸山幹事を中心として第一回撮影会ツアーの詳細が決まりました。行き先は山形県の出羽三山神社と日本海に面した由良温泉での夕日及び朝の海の風景、さらに、新潟県に入って越後の海「笹川流れ」を撮影して仙台に戻るスケジュールです。是非会員皆様の積極的なご参加をお願い致します。

いよいよ待ちに待った当協会独自企画の撮影会が開催される事になりました。旅行代理店は竹内顧問、鈴木会長同行の当協会協賛撮影ツアーでお馴染み、近畿日本ツーリストが担当します。

日程は十月二十日(月)～二十一日(火)の一泊二日。竹内顧問が講師として同行。参加費用は3万円です。

撮影場所は出羽三山の羽黒山五重塔・玉川寺庭園、羽黒山では山伏と巫女さんをモデルにお願いする予定との事。独自企画ならではの催しで、滅多に無いチャンスだと思われまます。その後は全国渚百選、日本の夕日百選に選ばれた由良海岸、八乙女浦の景色と夕日撮影を予定。この八乙女浦は千四百年前に蘇我馬子に暗殺された崇峻天皇の子蜂子皇子が京都の由良から舟で北に逃れ、絶壁の岩上で八人の美しい乙女が導き迎えたのが地名の由来。ちなみに、この蜂子皇子が羽黒山、月山、湯殿山を開山しました。羽黒山に導いたのが三本足のカラスでこれがサツカーでも有名になった「八咫鳥」です。この時期の日の入りは午後五時前後で「天気の良い事を祈るばかり」と丸山幹事は真剣に願っています。宿泊は「ホテル八乙女」で一泊撮影ツアーならではの楽しみ、日本の新鮮な魚介類の食事が味わえるのではないかと思います。翌日は早朝の海の撮影を行い、朝食後は新潟県村上市にある海岸で国の名勝及び天然記念物に指定されている地域、日本百景にも選定された「笹川流れ」に移動し、撮影を行います。「笹川流れ」の笹川とは集落名で、この笹川地区より沖合の岩場まで潮流が見られたことが名前の由来です。(フリー百科事典「ウィキペディア」より引用) 概要は鳥越山から

私の撮影地は長野県が多く、良くマイカーである。多岐にわたります。上高地に行くと、台風が近づいていて風雨が強く、土地の人より「今上高地に入ったら道路が不通になり、場合によっては出られなくなるかも知れませんよ」と言われ、沢渡



早朝の妻籠宿

駐車場よりUターン。このまま仙台に帰るのも残念と思ひ、以前より気になっていた島崎藤村の「木曾路はすべて山の中」で有名な妻籠宿に向かいました。妻籠宿は私にとって初めての撮影地です。目的地に着いて「明日は雨が上がるだろう」と自分勝手に思い込み、雨の降りしきる中を宝物でも探すかのように撮影ポイントは何処へいず(と歩き回る。雨なのに観光客も多いが昔風の喫茶店で雨宿り、しばし

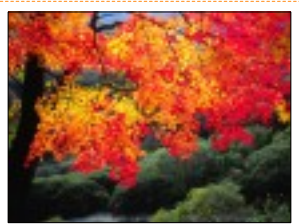
撮影ひとり旅

鈴木 登

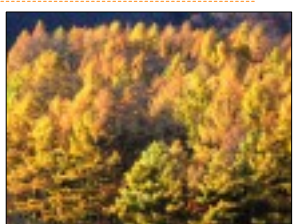
雑談。午後3時過ぎ表に出ると、先程あれだけ居た観光客も疎らになっていた。明日の撮影ポイントを決め、宿泊案内所で民宿を紹介してもらった。この宿は妻籠宿の一番端にあり、そこを出発点に往復すると一応街並みを全部見ることが出来る。この宿屋の名前は「旅籠 大吉」さんです。(後日、メモリーに妻籠宿撮影ツアーの際分宿でお世話になった方も居ました)さて、宿に上がる際、ビショビショの靴を見た女将さんは靴の中に古新聞紙を入れてくれて明朝には殆ど乾いていました。うれしい心遣いでした。うれしい心遣いです。風呂から上がり、夕食は当地で獲れた川魚や新鮮な山菜、野菜などその素朴な味の美味しさに満足。やがて床に就いたが雨だれの音が聞こえず「もしかして雨が上がったのでは」と思い雨戸を開ける。なんと昨夜まであがっていた。三分間で六カット撮影、私としては早撮りの最短記録でした。



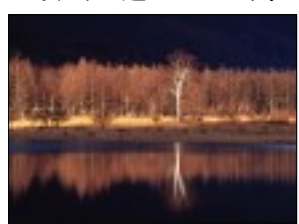
街・七北田公園



里・松島・扇谷



高原・黄葉・裏磐梯



高原・日光小田代原



山岳・立山紅葉

なフィルムを使用すると鮮やかな発色となります。エクタクロームEKTORSベルビア100、100F等フィルムは紅葉を鮮やかに写すにはPLフィルムを使用し、表面の反射を取り除く、調整し過ぎると立体感が弱くなるので要注意。光りを読む 晴天時の順光線ではフラットになり、立体感が出し難いので半逆光線を選ぶ、曇天でも角度により光線状態が違うので、良く観察する。

雨天のしつとりした空気感のある光も取り入れる。逆光線の活用 紅葉をクロースアップする場合等、逆光を生かして立体感を出す露出補正 色を鮮やかに表現する場合、-0.5、柔らかく出すには+0.5

「三脚」 ケースに入れて預け荷物とする。

「その他」 着替え等必要な物は預け荷物とする。機内持ち込みは二個まで大きさに制限があります。

「デジタルカメラ」 受光メディアはX線に影響されないで問題なし、ただし、強い磁気には注意が必要です。

(顧問 竹内 正)

秋、紅葉を撮る 顧問・竹内 正

秋は植物が活動を休止する前の、最後の最も華やかで美しい時期でもあり、絶好の被写体となり、南北に長い日本列島では紅葉の時期は長く、北の高山では九月中旬から南の里、街中では十二月中旬まで楽しめます。山岳地帯の紅葉と里の紅葉では被写体も異なり、撮影方法も違ってきます。そこで撮影のポイントを整理しました。基本を再確認しましょう。

「山岳の紅葉」 最近ロープウェイ等で簡単に山岳の紅葉風景を楽しむ事ができます。高山の紅葉は燃える様な赤と黄葉、針葉樹の緑と色相が豊富で変化に富んだ秋景は、華やかな中にも深みのある情景を醸し出しています。

「ダイナミックな山岳風景」 大きく大胆なフレーミングで撮影する。青空、雲、霧、霧、ガス等を活用して、空気感を大事にして奥行きをだす。

「里、街中の紅葉」 十月後半になると紅葉も里から街中まで降りてきます。特に「いろはもみじ」は鮮やかに色付きます。日頃よりポイントを確認してこまめに撮影しましょう。早朝がお勧めです。

「紅葉撮影の注意事項」 フィルム 硬調

航空機に写真機材持ち込み時の注意事項

東北風景写真家協会の「北海道大雪撮影会」が近づき、参加者から機材、フィルム等の飛行機持込に際する問い合わせが出ておりますので、注意事項を纏めてみました。

「カメラ、レンズ」 機内持ち込み荷物として飛行機内に持ち込む、機内倉庫預け荷物とする、飛行機中上空は低温となる為、機材に悪影響を与えます。特に電池使用のカメラは要注意。

「フィルム」 米国のテロ事件以来手荷物検査のX線が強力となり、フィルムを通すのが不安視されています。フィルム、カメラはX線を通さず直接係員に手渡しして、通過後検査を受ける方法とフィルムはX線を通さないフィルム用の鉛袋に入れて預け荷物に入れる方法があります。いずれでも可。

森吉山・小又峡

森吉山は秋田県の中東部にそびえ、北の森吉地区と南の阿仁地区にまたがる標高一四五四mの山で北東麓を「奥森吉」、南東麓を「奥阿仁」と呼んでいます。起伏に富んだ山々を集水域とするブナの森には、天然記念物のクマガラが生息しています。小又峡、桃洞、赤水溪谷などの溪谷・渓流や、数多くの名瀑が続く秘境です。

森吉山頂一帯は六月から九月にかけて可憐な花が咲き誇り、「花の百名山」の一つになっています。お花畑は山頂東側にある山人平で、ここに行くと阿仁ゴンドラに乗り、山頂駅から石森・阿仁避難小屋・稚児平・山頂・山人平と、登山道を片道一時間四〇分ぐらい歩きます。歩きに自身のない方はゴンドラを降りたら石森へ行き、ここから森吉神社と冠岩（かんむりいわ）があり、ここから引き返してきてもよく、往復一時間半あれば十分です。ゴンドラ乗場には開花状況が掲示されているので参考にしてください。

秋には山体をバックにブナ、ダケカンバの黄葉と点在するカエデなどの紅葉が見事です。

森吉山には、秋田新幹線角館から秋田内陸線に乗り換え、阿仁合か阿仁前田で降りバスで行くかタクシー利用となる。マ

イカーでは一〇五号線を経て阿仁ゴンドラ乗場へ行く。

小又峡は神秘的な自然の造形美を見せ、他に類のない景観です。森吉ダム完成により出来た大平湖には、大小十三の渓谷、渓流が注ぎ、サクラムス、イワナなどが生息しており、ここを遊覧して小又峡に渡ります。

棧橋から歩き始め、二キロの遊歩道が整備されており三階滝まで二時間弱で往復できます。横滝・曲滝、カマ淵、三角滝

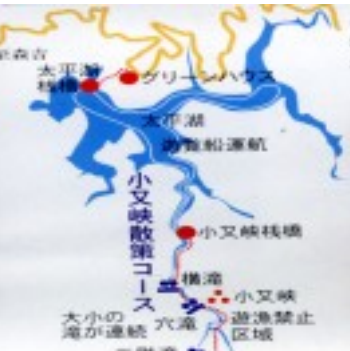
六滝 化ノ滝

と個性的な滝が続き三階滝に着きます。三階滝は落差二十メートル、三段に分かれて流れ落ち迫力満点です。行く道々は、秋

にはドウダン、カエデの紅葉が美しい。

森吉山からの返りに、一〇五号線に戻り北上し阿仁前田から東に小又川沿いに走ると一時間くらいで大平湖に着く。この近くの国民宿舎森吉山荘か、（杣）温泉に泊ると都合が良い。往路を戻っても良いが曲がりくねった山道（県道三九号線）を北東方向に進むと一時間程で東北自動車道鹿角八幡平ICに出るので利用できます。

（渡邊セツ）



私のフィルターワーク

飯田 栄

LBフィルター 色温度変換フィルター

リバーサルフィルムを使う場合、LBフィルターを使用することにより、フィルムと光源の色温度を適合させます。実際に会った光源は様々で、フィルムにとって最良の光源を使うことが難しい。それでLBA（色温度下降用のアンパ）系、日陰や曇りの日の青っぽく写る現象を自然な色に整える）やLBB（色温度上昇用ブルー）

あわせる様にし、自然の色を忠実に再現する。L A B フィルター2、4、8やL B B フィルター1、2、4、8を常時携帯して撮影する様に心掛けておりました。

センターフォーカスフィルター

凸レンズの中心部に素

フレイムの中にシャープな中心像ができます。撮影にはレンズは50ミリ前後、絞り4、または5・6ぐらいが効果が出ての？と質問されたことがあります。ネタパレですが、実は密かにこのフィルターを使用していたのでした。

スカイセツト

フォトグラフィック樹脂の角型フィルターです。カラーグラデーションになっております。マ

日本は欧米に比較して写真芸術に対する認識がまだ薄い現状ですが、近年写真専門の美術館が各地で開館して、その数もローカルを含めると一〇館近くになりました。有名なお所では、東京都写真美術館、土門拳記念館、清里フォトミュージアム、拓真館（前田真三写真ギャラリー）、岡田太郎美術館、竹内敏信常設写真館、等々があります。

今回は日本で最初に開館した、土門拳記念館を紹介いたします。

土門拳は世界を代表する写真家の一人であり、一九〇九年酒田生まれ

で、酒田市の名誉市民の第一号になりました。自らの作品全て（七万点）を酒田市に寄贈、これを受けて酒田市では一九八三年日本初の写真美術館、土門拳記念館を開館しました。有名なデザイン・亀倉雄策の銘板、イサムノグチの彫刻、華道家 勅使河原宏のオブジェ等があり芸術の館の感があります。

同館は広大な敷地の飯森山公園内にあり、作品の保存をはかりながら、主要展示室では常設で土門拳の作品を展示しており、「古寺巡礼」、「室生寺」、「ヒロシマ」、「筑豊のこどもたち」、「風貌」、「日本名匠

ルチホルダーをレンズに取り付け、これに角型フィルターを差し込んで、上下スライドさせて使用します。日の出や夕陽の撮影によく使用します。ハーフNDフィルターと組み合わせるにより、日中も使用します。日の出、夕陽の場合、スカイセツトフィルターとマゼンタを組み合わせると更に良い色になる様

写真美術館めぐり 土門拳記念館

竹内 正

展示日程

6月25日～10月5日 開館25周年記念展

10月8日～1月12日 土門拳全仕事

1月15日～4月5日 古寺巡礼



カメラ・・・こんな話、あんな話 第一話 デジタルカメラって昔の合体ロボ？

この二〇年間のデジタルカメラの進化は、フィルムカメラの十倍の速さで機能が変化しています。画像をデジタルで記録する始めてのデジタルカメラは、FJのFUJIFILM S 1 P（一九八八年）液晶画面を搭載し、六万円台の価格で大ヒットしたのがカシオのQV-10。それから、動画記録機能、AEやオートフォーカス（AF）、画素数の大幅アップ、ISOの変更可、手ブレ制御、高倍率ズーム、デジタルズーム、液晶画面の大型化、顔認識機能、笑顔認識機能と様々な奥の手が開発され搭載されました。

なんか昔、子供に買ってやった「合体ロボ？ンガーZ」みたいに、いろいろな武器を装備して、あらゆる戦術シーンに対応するロボットを思い出しました。何でもかんでも付いていけば良いというもんでも無かるうに。と思うのは私だけ？

デジタルカメラってスゴイですね。ただ

し、全部の機能を解かなくて使えば、頭がついていけない、使いこなせない。でもフィルムカメラはメンドクサイ？

そこで、デジタルカメラでできなくて、フィルムカメラでできる事を搜してみました。電池がアウト・・・自動巻上のフィルムカメラや、自動露出のフィルムカメラはデジタルカメラと同様、撮影はアウトだが、機械式のフィルムカメラは、フィルムさえあれば撮影OK。多重露光・・・コマに、何回も露光すること。（ほぼ全部のフィルム一眼レフで可）たぶん、これはデジタルカメラではできないと思います。

でも、方法はありません。ただし花火撮影のような暗い中の撮影のみ。花火を多重で撮影する時、バルブ（B）でシャッターを開き、黒い遮光板でレンズの前を何回か覆って撮るしかない。いかに撮るデジタルらしからぬ、アナログ的なテクニックです。

（丸山慎一）

編集後記

写真マニアにとってはじつとっておれない紅葉の季節が近づいてきました。北海道および庄内への撮影ツアーに関する案内を掲載しました。「秋、紅葉を撮る」を實踐して、素晴らしい風景を写し撮って下さい。

秋田の内陸部の森吉山と秘境小又峡を紹介しました。実はこの地域の情報は十分ではないので、交通の便など確認のうえ、お出かけ下さい。

フィルターの使用は間違いがあったり、億劫だったりしますが、フォトマスタの資格を取る程勉強なされたベテランならではのコツ如何でしょうか。会員の方々の失敗や工夫をお寄せ願います。

今回写真美術館めぐりを企画し、そのスタートを竹内顧問よりご寄稿頂きました。今後もお気に入りの写真館等の情報をお待ちしております。

この会報は季刊となっております。季節を意識しつつ編集しております。季節のずれることや、頂いた原稿が先送りになることもありますが、お許し願います。原稿は発行予定の半月前までにお寄せ願います。